

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年2月28日現在

### 今月の重点活動

#### ■GAP 各地で「ぎふ清流GAP」の農場評価を受検

農林事務所では、JAにしみのと連携し、令和4年度の重点活動として、「ぎふ清流GAP評価制度」の普及を推進している。

2月7日には、JAにしみの海津胡瓜部会員1名が農場評価、23日には、大垣市の(株)西濃パイロットがブロッコリーの農場評価、22日には海津茄子部会の部会組織及び集荷場の施設評価、28日には海津茄子部会2名がナスの農場評価を受検した。

当日は、ぎふ清流GAP推進センター職員から評価項目についての聞き取りと、書類及び作業場等の現地確認行われ、JAと農林事務所の職員も立会した。

各種記録や手順書、リスク評価などの書類はしっかりと整理がされ、作業場や農業機械倉庫内も整理・整頓が徹底されており、大きな問題となるどころもなく、高い評価であった。農林事務所では、引き続きJAと連携し、今回の改善が必要な指摘事項に対して改善指導を行い、より高いレベルでのGAPの実践を支援していく。



【室内での農場評価の様子】

### 西濃の農業・農村を支える人材育成

#### ■担い手リーダー 大垣養老高等学校で出前講座を実施

農林事務所は、2月17日、県立大垣養老高等学校園芸科学科2年生を対象にした出前講座を3年ぶりに開催した。出前講座は、管内の農業の現状を理解してもらうことで、地域農業への興味・関心を一層高め、農業の担い手育成・確保に資することを目的としている。

今回は「花き」をテーマとし、管内で花き栽培に取り組む指導農業士及び青年農業士各1名が講師となり、経営概要や栽培管理等について講義が行われた。受講した生徒からは経費や栽培のポイントなどについて質問が出され、2名の講師が真剣に答える場面も見られた。

農林事務所は、この出前講座を通じて西濃地域の農業を担う人材が育つよう引き続き支店していく。



【出前講座の様子】

#### ■農福連携 先進地事例視察研修の実施

2月24日、農福連携西濃地域連携会議では、西南濃農業普及事業推進協議会と連携し、先進事例視察研修を行った。視察先は、JAぎふはっぴいまるけ及び岐阜大学の農福連携の取り組み、地域の活性化に向けたいちごの観光農園とし、当日は構成団体ら12名が参加した。

研修では、障がい者雇用への各組織での考え方、具体的な作業内容や能力を生かすための工夫、課題について情報収集を行うことができた。農林事務所では、今後も農福連携について関係団体と情報共有を行いながら、マッチングなどができるよう支援していく。



【岐阜大学での視察の様子】

## 安全で身近な「西濃の食」づくり

### ■有機農業 有機農業推進プロジェクトチームの最終検討会を開催

2月8日、有機農業実証生産者、農林事務所、神戸町役場、JAにしみのを構成員とする西濃地区有機農業推進プロジェクトチームの最終検討会を開催した。

農林事務所からは、有機農業営農モデル実証ほ（水菜・神戸町）の結果について説明を行った。夏秋作型では懸念された害虫は見られず、一定の成果は得られたが、雑草が多発し、手除草による労働時間が大幅に増加した。また、窒素欠乏が懸念される冬作型は栽培途中であるため、現地ほ場の視察と意見交換を行った。

当日は県庁農産園芸課も出席し、チーム活動の成果や課題の情報を共有するとともに、今後の取り組みについて意見交換をし、次年度活動へ向けた要望を行った。



【現地検討会の様子】

## 西濃の農畜水産物のブランド展開

### ■ナシ 海津市で梨の根圏制御栽培の植え付け開始

海津市平田町の（株）ファームコタニアは、冬春トマトの遊休ハウスを活用した梨の根圏制御栽培の取り組みを令和3年度から進めており、今冬に苗木の植え付けを計画している。

1月27日から、（株）ファームコタニア、農林事務所職員に加え、県庁農業経営課の革新支援専門員、揖斐農林事務所などの指導を受け、苗の植え付けを開始し、2月末までに45aのハウス内に800本の苗の植栽を終えた。なお、収穫開始は2年後の令和7年の夏から始める予定としている。

梨の根圏制御栽培は、すでに大垣市で取り組まれており、管内では2カ所目となる。農林事務所では、海津市の新たな特産品となるよう引き続き支援を行っていく。



【苗の植え付けの様子】

### ■花き 飛騨美濃特産名人に大垣市の佐竹静氏が認定

2月20日、飛騨美濃特産名人認定式が県庁6階、第一応接室で開催された。今年度は、えだまめ（岐阜市）、養豚（各務原市）、鉢花（大垣市）の3名が認定され、知事から賞状の授与と、写真撮影が行われた。

大垣市で鉢花生産を営むA氏は、高い栽培技術を持ち、高品質な鉢花を生産していることに加え、地域の営農組合・花き流通センターへの貢献やフランネル研究会の副会長を務めるなど、花き業界を牽引してきた活動が評価された。

農林事務所では、大垣市役所と連携し、申請書類や認定式の対応などの支援を行った。今後も安定した鉢花生産が継続できるよう技術的支援を行っていく。



【名人認定式の様子】